

3. 大味中遺跡

所在地：坂井市坂井町大味

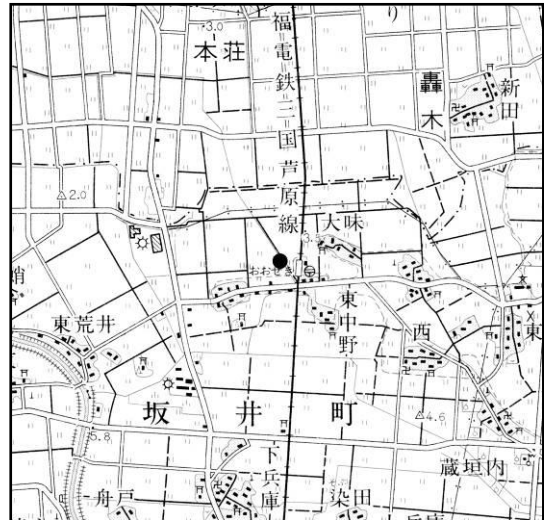
調査原因：県営かんがい排水事業西江・中江地区

調査期間：平成 22 年 11 月 1 日～12 月 27 日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：360 m²

時代：縄文～平安時代



位置図 (S = 1 / 50,000)

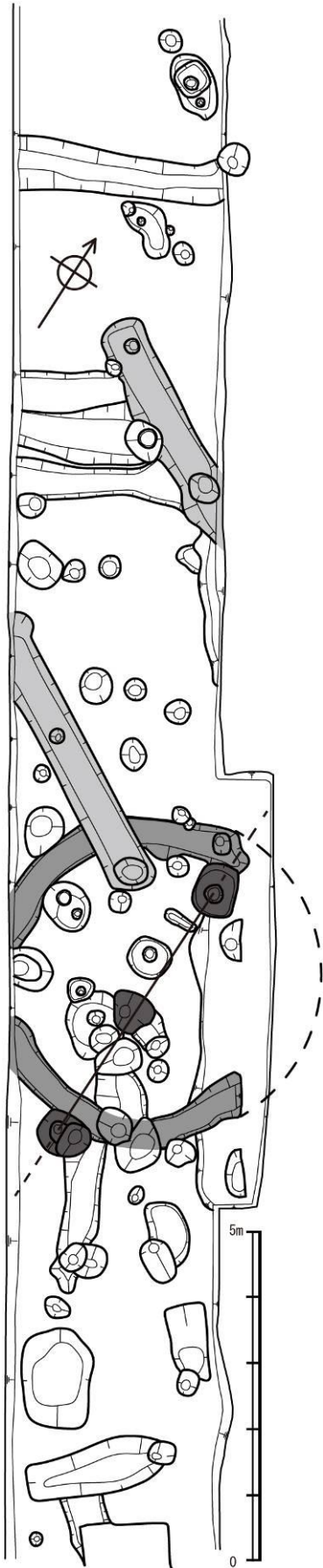
調査の概要 大味中遺跡は、大味中集落から南東に広がっています。今回の調査は、西江用水のパイプライン化に伴い実施しました。調査区は、大味地区ポンプ場に接続するパイプライン埋設部分の一部になります。平成 9 年に当時の坂井町教育委員会が用水を挟んだ東側で発掘調査を実施しています。

遺構 主な遺構は平地式住居、布掘溝掘立柱建物、掘立柱建物を各 1 棟検出しました。平地式住居は、幅約 50cm、深さ約 30cm の溝が円形状に廻っていて、直径約 5 m の大きさです。布掘建物は、幅約 70 cm、深さ約 50cm の布掘溝が 2 本並行していて、溝底には約 2 m 間隔で直径 20～30cm、深さ約 10 cm の穴があります。掘立柱建物は、約 2 m 間隔で柱穴を 3 基検出しました。この柱穴の掘り方は、一辺約 70cm の方形を呈し、南北方向に並んでいます。また、調査区の北端で弥生土器が多く出土した溝・古墳時代初頭の土器が出土した溝があります。これら以外に土坑・溝・ピット等多数の遺構を検出しました。

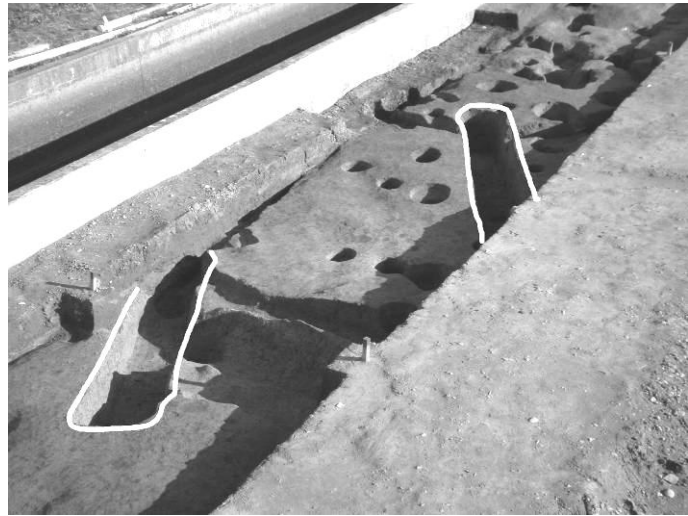
遺物 平地式住居の溝からは縄文時代晩期から弥生時代中期と思われる土器が出土しています。布掘建物の溝からは弥生土器（後期）、ピットからは弥生土器（中期～後期）、溝からは古墳時代初頭の土師器、掘立柱建物の柱穴のひとつから平安時代の須恵器坏が出土しています。今回の調査区で包含層が残っていた所があり、そこからは弥生土器・土師器・須恵器といった土器以外に、弥生時代に属すると思われる石包丁や緑色凝灰岩の破片もわずかですが出土しています。

まとめ 縄文時代晩期～古墳時代初頭と平安時代にわたる複合遺跡です。特に縄文時代晩期～弥生時代中期の平地式住居は県内においても類例は少なく貴重な例です。また、長期にわたり集落が営まれていたことは、この地が居住するのに好条件であったものと思われる。

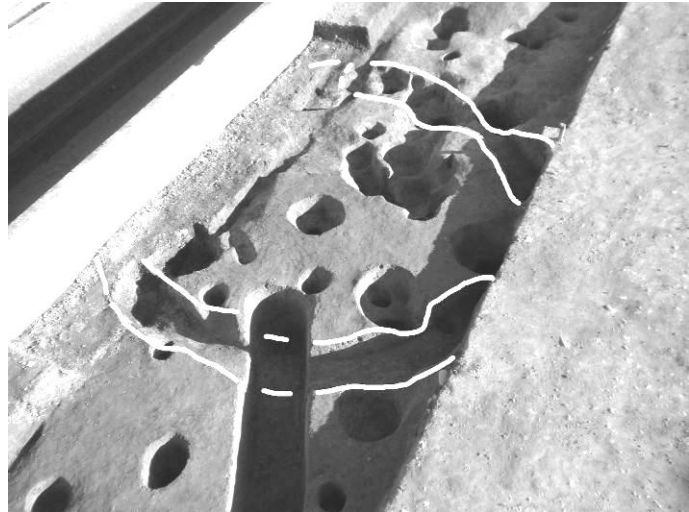
(青木隆佳)



遺構配置図 (S = 1/100)



布掘建物



平地式住居



掘立柱建物